

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ Support for the Aged and Support System for Care Insurance Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修 社会福祉主事任用資格に係る科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
中島 佳子	栄養棟3階	授業時に説明します。		授業中に指示します
授業の概要				
「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ」では、具体的な高齢者ケアについて学び、専門職としての視点や対応方法を身につける。そして終末期を見据え、要支援・要介護高齢者とその家族の福祉・介護ニーズに応じた効果的な支援を説明できるようになることを目的とする。				
授業の目標				
①高齢者を支援する専門職とそのチームアプローチについて説明できるようにする。 ②高齢者を支援する専門職の一員として果たすべき役割・特徴を述べるようにする。 ③介護の概念や対象および介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について説明できるようにする。 ④終末期ケアの在り方について述べるようにする。 ⑤高齢者の権利擁護について説明できるようにする。				
授業の方法				
視聴覚教材、配布資料を使用した講義形式で進めるが、学生の理解を深めるため演習を取り入れることもある。				
学習の成果（学習成果）				
高齢者を支援する専門職の役割を理解し、具体的なサービス提供について述べるができる。 介護の概念、具体的なケアの方法を説明することができる。 権利擁護、終末期の支援のあり方を捉える。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション（授業の目標と進め方、成績評価についての説明、諸注意等）			
第2回目	高齢者を支援する専門職の役割と実際①（専門職の役割と実際、専門職による共同）			
第3回目	高齢者を支援する専門職の役割と実際②（専門職の倫理）			
第4回目	介護の概念や対象			
第5回目	介護過程			
第6回目	介護各論 自立に向けた介護			

第7回目	認知症ケア①（認知症の理解）	
第8回目	認知症ケア②（認知症高齢者と家族）	
第9回目	認知症ケア③（認知症ケアの実際）	
第10回目	芸術療法の実際～臨床美術～ 外部講師：アトリエこぼこ 小橋操氏（臨床美術士） レポート課題【提出：第11回目】	
第11回目	終末期ケア① 概念と終末期の特徴	
第12回目	終末期ケア② DVD「"最期"までの日々」 レポート課題【提出：第13回目】	
第13回目	高齢者支援の方法と実際 個人・家族に対する相談援助	
第14回目	近未来の高齢者福祉課題	
第15回目	高齢者福祉課題とまとめ・国家試験対策	
事前・事後学習	事前学習：授業スケジュールを確認し、テキストの該当ページを読んでおくこと。 事後学習：授業での学びを踏まえ、テキスト・メディア・新聞などを通じ、高齢社会の課題について検討すること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	以下の視点で判断する。履修上の留意点を遵守し、遅刻なく準備を整え授業に臨み、必要なことはノートを取り、学んでいること。講義・演習に積極的に取り組んでいること。
レポート	20%	第10回、第12回のレポートにて評価する。評価Sは、課題を理解し、講義内容のまとめとそれに対する自分なりの感想・意見が述べられており、適切な表現で文章に誤字・脱字がなく、様式が守られているもの。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	選択形式、穴埋め、事例問題等で出題し、知識及び内容の理解を確認する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
高齢者に対する支援と介護保険制度 I と同様		
履修上の留意点・ルール		
私語、携帯電話の使用を禁止する。授業に関係のないもの（携帯電話、食べ物、飲み物、化粧品、手帳）はかばんにしまうこと。 配布資料のデジタル化禁止。他者に迷惑をかける行為があった場合は、退出させることがある。		